

巻頭言

小田原市教育研究所 所長 石井 政道

「令和時代の教育スタンダード」

「GIGA スクール構想」は、新型コロナの流行により、臨時休校になった子どもたちの「学びの継続」という観点から一気に加速しました。本市でも早急に「おだわらっ子ドリル」を配信し、「おだわらっ子チャンネル」へと取り組みを広げました。そしてインターネット利用による学習ソフト（ドリルパーク）の準備を進め、8月末には授業や家庭学習で利用できる環境を整えました。同時に令和2年度内は端末やインターネット環境のない児童生徒への機器の無料貸出しを行い、誰もがインターネットを活用した学習に取り組めるようになります。さらに令和3年4月からは校内の通信ネットワークの整備が完了し、児童生徒に一人一台の端末を導入し、授業や学校生活での活用が可能となります。

さて、これまでも様々な教育改革が取り込まれてきました。今ではそれが当然となったり、再検討されたりして目立たなくなったものもあるように感じます。教育にも「流行」は必要ですが、単に時流に乗っているだけのものではなく、問題の核心に触れ、対策が講じられるものでなくてはなりません。今回の教育改革「GIGA スクール構想」は、その背景に学校の ICT 環境の整備、学校の授業におけるデジタル機器の活用、子どもの学校外で学習面における ICT 利用等があります。こうしたことを十分に理解し、新たな学習環境の中で、積極的に学習ソフトや機器の活用を図り、これからの未来を生きる子どもたちに必要な力をつけてほしいと思います。

研究所便り

ICTを活用した教育

★学習ネットワークのヘルプデスクを開設しています。ご利用ください。

0120-386-110 （8時30分～17時）



★「ICTを活用した授業作り」について昨年度までの2年間、共同研究を行いました。

各校に研究のまとめをお送りしていますのでぜひご利用ください。

学習ネットワークの概要説明会を開催しました

学習ネットワークの概要や、令和2年度中の活用、
G suite for Education・ドリルパークの操作方法について
人数を制限した希望参加＋机上研修での説明会を行いました。

資料が市内共有＞99_教育委員会＞02_情報ネットワークシステム利用者マニュアル

＞【資料一式】各種説明会・研修会等＞23_学習ネットワーク概要説明会

にありますので、ご利用ください。

※著作権の関係で小田原市立小中学校の先生方のみ利用可となっています。



「児童生徒が主体的に取り組む特別活動に関する研究～望ましい学級集団づくりを通して～」

今年度から2年間にわたり、市内小中教員5名で、特別活動についての研究を進めます。特別活動の充実、不登校やいじめなどの未然防止、学力向上や自己有用感を育むことなど、複雑で変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な「生きる力」を育てます。コロナ禍の現在、3密を避けるなど制限の多い中ではありますが、工夫をしながら、小田原の子どもたちのよりよい成長のために研究に取り組んでいます。

＜研究員＞

山王小学校 高橋修司
白鷗中学校 高橋ひろみ
城北中学校 石井慎子
橘中学校 栗飯島正義

1 研究の目的

新学習指導要領において、特別活動で育成すべき資質・能力の視点として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3点が明確に示されました。児童生徒が主体的に学級活動や行事に取り組むための有用な指導方法について研究し、指導のポイントを明らかにするとともに、実践を通してその具体例を積み重ねるために行います。

2 研究テーマ設定の理由

受け身ではなく、「よりよくしたい」「創っていききたい」と主体的に活動する子どもの姿をめざします。その基盤となるのは、学級集団作りと捉え、本テーマを設定しました。

3 研究の進め方

テーマ達成のための手立てとして、

- ①児童生徒自身のPDCAサイクルを回す
 - ②自己肯定感を育む自治組織作りをする
- の2点を挙げました。これらを学級や発達段階に応じて取り入れた実践を行います。各年度、小中学校ともに実践研究を行い、講師による指導助言をいただく予定です。研究で明らかになった指導方法、指導ポイントや具体例をまとめ、市内各校に伝達し、活用していただきたいと考えています。

※本研究は令和2年度・令和3年度の2年間行う予定です。



ある教室から

思いを伝えるために

橋本 賢治

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活にかつてない変化と厳しい我慢を強いることになりました。話し合い活動や、友だちを助けること等、これまではプラスとされてきたはずの行動の多くが制限を受けています。緊急事態宣言の解除を受け、子供たちも学校の再開を喜んでいる頃、特別支援学級の訪問で、ある学校を訪れました。昇降口や廊下、水道場の前の足元には、待つための印がありました。休業期間中に先生方が子供たちのために作った掲示物でした。どんな思いで作ったのかなと想像しながら、特別支援学級の教室に着くと、入り口にポスターがありました。

「気をつけること『がやがや』

話したい！でも落ち着くまで待ってね。」

「心がけること『静かに過ごそう』

友達と遊びたいよね。でも今は我慢して命を守ろう。」

行動の制限をするため、否定型や命令的な言葉になりがちなのですが、子供の思いを代弁しながら、前向きな言葉を選択しているこのポスターに、製作者の子供に寄り添った思いを感じました。教室に入ると、そこには声の大きさや言葉数、友だちとの距離等を意識している子供たちの姿がありました。子供の思いを想像しながら伝え方を工夫している先生と、先生の思いをしっかり受け止めている子供との素敵な関係を見て、私の心が温くなりました。

見通しの立たないコロナ禍にあって、子供たちが笑顔で楽しく過ごしていくことを願っています。